

使用上のご注意

注記

- この商品の保証期間は納入後1年間といたします。保証期間内に弊社の責任による故障が生じた場合には、その商品を無償修理または無償交換いたします。ただし、次に該当する場合は、この保証範囲外とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。
 - (1) お客様の不適切な取り扱い、または使用による場合(本機取扱説明書に添わない設置や使用を含む)
 - (2) 弊社以外の改造、または修理による場合
 - (3) その他天災、災害、争乱等で弊社の責任にない場合なお、ここでいう保証は、納入品単体の保証を意味し、納入品の故障により誘発される損害はご容赦いただきます。
- この商品は、人命にかかわるような状況の下で使用される機器、あるいはシステムに用いることを目的として設計・製造されたものではありません。
- 記載内容については、お断りなく変更させていただくことがあります。

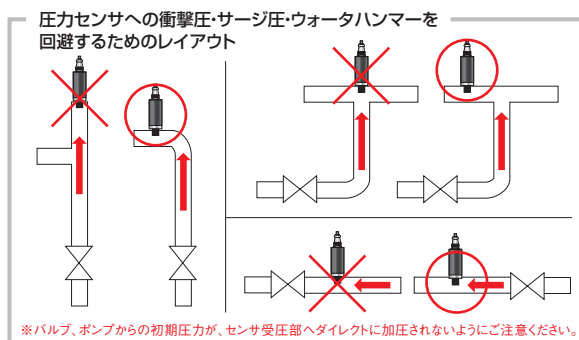
使用上のご注意

- 電源用配線、センサケーブルおよび入・出力線を傷つけたり、無理に曲げたりしないでください。**ショートによる発火の原因**となります。
- 電源は、定められた電源電圧以外では使用しないでください。異電圧で使用すると**火災や感電、故障の原因**となります。
- 本体および付属品を改造しないでください。**火災や感電、故障の原因**となります。
- 配線は確実に行ってください。接触不良を起こして**火災や感電、故障の原因**となります。
- センサの取り付けにおいては、取扱説明書の記載内容をご確認下さい。**ゼロ点への影響**がある場合があります。
- 出力トランジスタの最大定格を超えないようにして下さい。**また、負荷にリレーを接続する場合、**必ずサージ吸収用ダイオードを接続して下さい。**リレーに流れるコイル電流を急速に遮断しますと、急激な高電圧が発生し、この電圧がトランジスタの耐電圧を超えると**破損する恐れ**があります。
- 比較出力がチャタリングを起こす場合は、**ノイズの影響**があると思われます。センサ取り付け部は、ノイズ源から遠ざけて下さい。また、ノイズがのっている電源とは別の電源を利用したり、ノイズ・フィルターを入れる方法が有効です。
- 圧力導入口より突付いたり、測定触媒によりダイアフラムが腐食されたりすると穴が開き封入液(シリコンオイル)が**流出しますのでご注意ください。**
- ダイアフラム表面に生成物の固着等があると精度を保てない場合がありますので、**測定触媒**をご確認下さい。

よくあるご質問

設置関連

- ノイズの影響を排除するには、どうすれば良いでしょうか？
 - まず、ノイズ源からできる限りセンサ本体を離すことが一番です。
 - それでも効果がない場合は、センサを取り付けている筐体にアースを接続するようにしてください。
 - まだなおノイズ影響が疑われる場合は、市販のノイズフィルターを入れることをおすすめいたします。
- 結露に対する予防策はあるでしょうか？
 - 一番は、空調にて室内を除湿することです。
 - また、冷配管にセンサを直接取り付けしている場合は、導圧管を設けて冷配管からセンサ取り付け部を30cm以上離し、センサ本体温度と周囲温度の差が5℃以内にしてください。
- 使用温度について教えてください。
 - カタログに記載している仕様欄の温度補償範囲と許容温度範囲をご確認ください。温度補償範囲は製品の精度を保証できる温度範囲であり、許容温度範囲は製品が故障しない温度範囲を示しています。
 - 低温側で使用する場合は、氷結しない環境でご利用ください。



製品関連

- 「禁油処理」とは、どのような意味でしょうか？
 - 禁油とは、受圧部に油や水が付着、残留しないように洗浄処理されたものです。
- カタログに記載されているレンジ以外のレンジも製作可能ですか？
 - 製作は可能です。
 - ただし、精度や温度特性等に制約が付き場合がありますので、あらかじめ弊社営業部までご相談ください。
- 薬液やガスで腐食が伴うものを測定できるのでしょうか？
 - 弊社の受圧接続部には基本的に低圧の一部を除いてSUS316LやSUS630などのステンレス材を使用しております。お客様の測定媒体がこれらのステンレス材を腐食させない限りにおいて測定可能です。
- ゲージ圧(大気圧)と絶対圧とは何が違うのでしょうか？
 - 詳細は本カタログの20～21ページをご参照ください。
 - 基本的に、ゲージ圧(大気圧)はセンサの置かれている大気圧をゼロ点としており、絶対圧は、真空状態(約10Pa以下)の圧力をゼロ点としています。
- 過大圧、サージ圧からの保護はどうすればよいのでしょうか？
 - サージ圧が発生した場合、ピーク値は正常値の5倍以上になる場合があります。この場合、オフィス等の脈動圧緩和用継手を設けることをおすすめいたします。(88ページをご参照ください。)
- ウォーターハンマー現象とはどのようなものなのでしょうか？
 - バルブなどを用いて流量を急激に変化させると、激しい過渡的な圧力変動を生じ、物を打つような音を発生することがあります。これをウォーターハンマー(水撃現象)といいます。
 - ウォーターハンマー(水撃現象)が生じると、センサ受圧部に過大圧を生じ故障の原因となりますので、ご注意ください。